

令和8年度第1回 半田市地域福祉計画推進委員会 会議要旨

開催日時	令和8年6月2日（火）	10時30分～12時00分
開催場所	半田市役所 会議室 303・304（3F）	
会議次第	1. はじめに (1) 委嘱状伝達 (2) 委員紹介 (3) 委員長選出 2. 議事 (1) 第3次半田市地域福祉計画について (2) 第3次半田市地域福祉計画の推進体制について (3) 第3次半田市地域福祉計画の中間見直しに向けた取り組みについて 3. その他	
出席者	【委員】 ◎は委員長 ◎原田 正樹、藤條 充、鵜飼 数正、森川 武彦、立石 佳輝 榊原 千恵美、部田 かね代、山田 伸吾、田窪 英樹、榊原 かおる 【半田市 関係部課】 福祉部長 小林 徹、こども未来部長 間瀬 恒幸 生活援護課長 森下 貴仁、高齢介護課長 木村 智恵子 健康課長 太田 敦之、こども育成課長 森本 総一郎 子育て相談課長 間瀬 小夜子 【半田市社会福祉協議会】 事務局長 小野田 靖、事務局次長 加藤 恵 事務局 地域福祉課長 山本 勇夫 地域福祉課 赤坂 英寿、深川 芳行、川口 一美、加藤 裕加	
次第	議事概要	
1. はじめに	（地域福祉課長） ・ 令和8年度第1回半田市地域福祉計画推進委員会を開会します。 ・ 当委員会は第3次半田市地域福祉計画策定後、初めての開催となりますので、委員長が選出されるまでの間、進行を務めます。 ・ 委員13名中10名の出席（欠席は関委員、今井委員、柴田委員の3名）があり、半田市地域福祉計画策定委員会設置要綱第6条第2項に規定する半数以上の出席があることから本会議は成立しています。 ・ 開催にあたり、福祉部長からあいさつ申し上げます。	

	(福祉部長) ・ あいさつ
(1) 委嘱状 伝達	(地域福祉課長) ・ 委嘱状は、各委員の机上に置かせていただきました。これをもちまして、委嘱状交付に代えさせていただきます。任期は3年間です。
(2) 委員紹 介	(地域福祉課長) ・ 委員及び事務局からあいさつをお願いします。 (各委員・事務局各職員) ・ あいさつ
(3) 委員長 選出	(地域福祉課長) ・ 半田市地域福祉計画推進委員会設置要綱第5条により、委員会には、委員の互選により、委員長を定めることとしております。本委員会の「委員長」について、委員のみなさまに選出していただきたいと思います。 (立石委員) ・ 原田委員を委員長に推薦します。 (各委員) ・ 異議なし (地域福祉課長) ・ みなさまからの同意をいただきましたので、委員長は原田委員にお願いいたします。委員長にはごあいさつと「副委員長」の推薦をお願いします。 (原田委員長) ・ 第3次半田市地域福祉計画をどのように進行管理して推進していくかがこの委員会の役割です。委員のみなさまと共に、第3次半田市地域福祉計画を推進していけるよう意見を交わしていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。副委員長には、森川委員を推薦します。 (各委員) ・ 異議なし (地域福祉課長) ・ みなさまからの同意をいただきましたので、副委員長は森川委員にお願いいたします。また、以降の議事進行につきましては、委員長にお願いします。
2. 議事 (1) 第3次 半田市地域福 祉計画につい	(原田委員長) ・ 事務局から説明をお願いします。 (事務局) ・ 第3次半田市地域福祉計画本編及び概要版により説明。

て	(原田委員長) ・半田市地域福祉計画は6年の計画で、委員の任期を3年としたのは、地域福祉計画の中間見直しを一つの区切りとしていることもあります。また、社会福祉分野別計画が3年ごとの策定であるため、その策定期間と整合性がとれるようにしています。 ・各分野別計画と地域福祉計画の整合性を図るため、各分野別計画を所管する行政の各課長に出席してもらっています。 ・各委員は地域福祉計画の位置づけを確認していただき、議論を進めていければと思います。
(2) 第3次半田市地域福祉計画の推進体制について (3) 第3次半田市地域福祉計画の中間見直しに向けた取り組みについて	(原田委員長) ・事務局から説明をお願いします。 (事務局) ・地域福祉計画は、地域福祉活動に関する計画という側面だけではなく、半田市全体の福祉の理念計画という側面もあり、障がい、高齢などの各個別分野との関連性を有しています。また、地域福祉計画は重層的支援体制整備事業に関する実施計画を内包しています。 ・第3次半田市地域福祉計画では、「誰もが自分らしく生きられるまち・はんだ」という基本理念を掲げています。 ・半田市では、地位福祉活動の中心の階層として第2層（中学校区）と第3層（小学校区）を意識した体制づくりをしています。 ・第3次半田市地域福祉計画では大目標として「はんだ版包括的支援体制の構築」を進めていきます。 (原田委員長) ・各部会の取り組み内容については次の議題ですが、関連性があるため、続けて事務局から説明をお願いします。 (事務局) ・資料4により説明。 (原田委員長) ・ふくまる会議について、どのような会議か説明してください。 (事務局) ・ふくまる会議は、重層的な支援が必要なケースの検討及びケースから出てきた課題を各分野の専門職員や市役所の関係課職員が横断的に協議をする場です。 ・重層子ども支援会議、生活困窮自立支援会議についても、困難な課題を抱

えた人たちのケース検討や支援のつなぎについて、各分野で横断的に協力して議論をしています。

- ・ふくまる会議では主に推進施策D・Jに取り組む予定としています。

(原田委員長)

- ・第3次半田市地域福祉計画では、はんだ版包括的支援体制をしっかり作っていくことにしています。
- ・推進施策はAからLまで12個あります。事務局からの提案は、これら12個ある推進施策を、3つの部会、地区別活動、ふくまる会議等既存の会議体に分けて取り組んでいくことで、地域福祉計画を推進していきたいとしています。そして、これらを全体的に俯瞰して進捗管理をしていくのが推進委員会の役割です。
- ・各分野別計画においても、地域福祉計画の包括的支援体制との整合性をとりながら進めていただきたいと思います。
- ・推進体制や各部会の内容などについて、委員からご質問、意見がありましたら発言をお願いします。また、各部会等に参加したいなどありましたら併せてをお願いします。

(森川委員)

- ・私は「災害にも強い地域づくり部会」に今後もかかわっていきたいです。計画では大枠を決めたと思うので、今後は具体的に誰がどのように進めていくかを考えて、実践を意識していきたいです。

(原田委員長)

- ・部会の進め方について、より実践的に進めていくための事務局の考えを教えてください。

(事務局)

- ・「就労・参加支援部会」は昨年度からの引き続きのなかで、既に今年度、部会の会議を進めています。他の部会についても、同様に定期的に会議を開催するなどして、着実に進めていきたいと考えています。また、各部会から出た意見について、庁内連携が必要なことなどあれば地域福祉課が中心となって取りまとめていきます。

(原田委員長)

- ・各部会の活動と、社会福祉協議会の地域福祉活動計画との関連性について説明してください。

(社会福祉協議会)

- ・地域福祉活動計画では、社会福祉協議会が地域のみなさんと一緒になって取り組んでいくべき地域福祉活動を具体的な内容まで記載していく予定です。各部会で出た意見をもとに、誰がいつどのような形で実施してい

くかということまで計画に盛り込んでいく予定です。

(立石委員)

- ・私は「就労・参加支援部会」に携わってきました。「就労・参加支援部会」は今年度に入って、4月と5月に打合せを実施しています。
- ・社会福祉土の実習について、既に半田市内でも行われている中で、実習内容の拡充や、実習生の受け入れを広げていくことにより、半田で実習を受けた学生がそのまま半田で働いてもらえる仕組みづくりを進めたいと考えています。
- ・実習受け入れ事業所が限定的となっていることや、名古屋での実習を希望する学生が増えてきていることも課題です。
- ・学生の実習先として子ども分野の事業所に人気がありますが、半田市内に受入事業所が現時点でほとんどないという状況です。
- ・市内の事業所が合同で実習の受け入れをしている例もあるので、各事業所の連携により、実習内容の充実化や効率化を図っていきたいと考えています。
- ・働きづらさを抱える人の就労について、生活援護課の無料職業紹介の事業を有効活用したいと考えています。
- ・まずこの1年で、皆さんとどのように実践するか決めて、その後2年で事業を具体的に進めていきたいです。

(原田委員長)

- ・人材確保については、10年程前までは各事業所の責任でしたが、いまはあらゆる業種で人手が不足しており、自治体の協力も不可欠になってきています。

(部田委員)

- ・実習生の確保は重要な課題です。令和9年度から日本福祉大学の社会福祉学部が美浜町から東海市に移ると聞いているので、半田で実習を受ける学生が減少することを危惧しています。

(原田委員長)

- ・社会福祉土の実習は、地元で実施することが前提にあるので、学生の実習の受け入れに関する影響は少ないと考えています。最近の学生はスマホだけで就活を完結させることも多いので、実習の受け入れは、人材確保につなげるチャンスです。実習を受ける中で、半田で働きたいと思ってもらえるような仕組みづくりが大切です。

(鵜飼委員)

- ・私は「就労・参加支援部会」に参加しています。働きづらさを抱える若者が多くいるなかで、企業との連携をとりながら進めていきたいです。

(原田委員長)

- ・半田市では、若者支援はどのようなことを行っていますか。

(事務局)

- ・若者支援については、明確な担当部署が定まっていないのが現状ですが、こども・若者計画を策定していくなかで、どのような課題があるのかなど検討しているところです。

(原田委員長)

- ・若者支援は制度の隙間にあることが多いため、各部会の議論でも意識していただく必要があると考えています。

(藤條委員)

- ・私は、昨年「就労・参加支援部会」に参加していました。相談支援等に携わるなかで、地区ごとに相談ができる事業所や実際に行われている社会参加ができる取り組みなどの一覧があるとスムーズに支援に繋がっていくと思います。
- ・保護観察がつかないような人でも、地域のなかで社会の一員となれるような仕組みがあると良いので、その視点で計画を進められるように意見を伝えていきたいです。

(原田委員長)

- ・地域福祉計画は再犯防止計画とも連携しています。居場所や参加ができる場が、関係者のなかで共有できるとうまく連携ができます。

(事務局)

- ・昨年度、ふくまる会議のなかで参加支援の場の一覧の必要性の議論がありました。今後、何らかの形にしていけると良いと考えています。

(山田委員)

- ・私は「権利擁護・居住支援部会」に参加してきました。権利擁護については事例を多く整理するなかで、居住支援とも連携を取りながら進めていきたいです。

(原田委員)

- ・「権利擁護・居住支援部会」は幅広い内容となっています。内容が広いと、深掘りすることが難しい面があるので、具体的な課題とのバランスをとりながら進めていきましょう。

(田窪委員)

- ・「就労・参加支援部会」に参加していきます。やれることを実践していき、その結果を計画に還元できるようにしたいです。
- ・藤條委員と協力して、受刑者等を雇用するコレワークを通じて3人雇用しました。

	(榑原かおる委員) ・「災害にも強い地域づくり部会」に参加しています。地域の中でイベントを縮小するなど、地域のつながりが希薄化してきていることを危惧しており、関心がない人たちをどう巻き込んでいくかが課題だと認識しています。 (原田委員長) ・計画策定にあたって実施した市民アンケートでは、地域の行事に参加したい回答する方の割合が下がってきています。関係者だけで地域づくりを進めていくことは困難なので、その課題をどう解消していくかを考えていく必要があります。 (榑原千恵美委員) ・現場で困り感がある人たちを、行政や社会福祉協議会などへ円滑につなげられる体制があるとよいと思います。 ・民間と行政のそれぞれの強みを発揮できることが大切です。 (原田委員長) ・相談窓口からいかに円滑に支援につなげられるのかは1つの課題だと思います。 (部田委員) ・福祉分野には複合的な課題が多くあります。分野をまたいで、連携しながら委員会を進めていきたいです。 (原田委員長) ・部会では具体的な事例を大切にしつつ、各部会間での連携もお願いします。
4. その他(連絡事項等)	(原田委員長) ・次回の委員会の開催は10月から11月を予定しています。 (地域福祉課長) ・次回の会議の開催については改めてご案内差し上げます。 ・これをもって、令和8年度第1回第3次半田市地域福祉計画策定委員会を終了します。ありがとうございました。
	(終了)